闘いぬいた百四日の首切り反対

アサヒ・タクシー闘争終る

最近における中小企業労働者の闘いは、全国的に見て件数も多く激烈であり長期化の傾向をたどつている。

大牟田においてもこの例にもれず合同労組、とくにタクシー関係の長期闘争は経営者の積極的攻勢の前にたたされて激しい様相を呈した。このため大地評としてもとくに闘争対策委員会を設置して三権の委譲をうけ全面的に共闘態勢を確立して闘争の指導、救援を行つて来た。

なかでもアサヒタクシーの解雇反対、臨時雇制撤廃の闘争は百四日間にわたり「会社側のロツク・アウト」「組合側の無期限座りこみ」と真向から対立した。この闘争の特異とする点は組合側の抗議を目的とした小規模な実力行使に対して、会社は予め十分な準備を整え、いきなり無期限ロツク・アウトを行つてきたところにある。

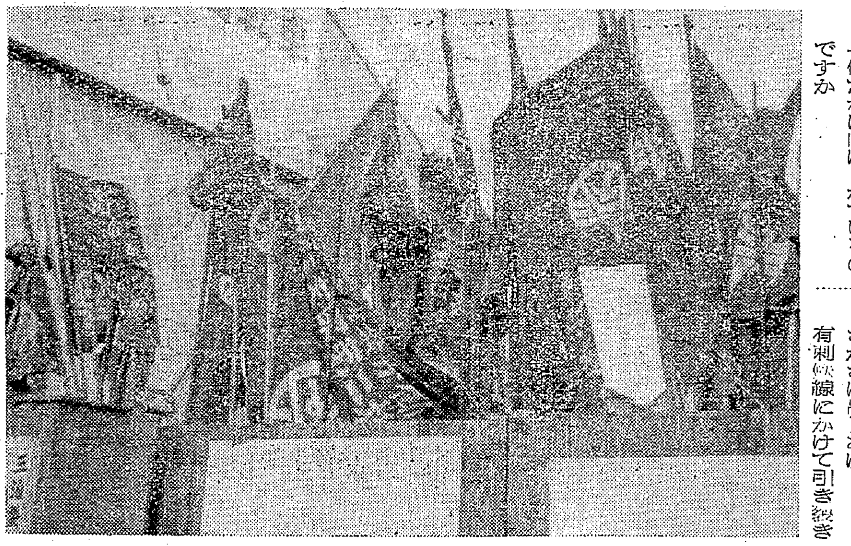
そこに常識では考えられない利害を度外視した無軌道ぶりを表わしている。事実、会社は六百万円に及ぶ事業収入を棒にふり、組合抹殺のため経営の運命をかけていた組合員たちも「降りかかつた火の粉は払わなければならない」「闘わねばやられるのだ」という合言葉の下に闘いに起ち上り、ここに百四日間という記録的な闘いが展開されたのである。

組合員たちは大地評の支援指導の下で酷暑に耐え、台風の中で歯をくいしばつて座りこみをつづけた座り込み中は網あみ、非番中はアルバイト（土工、新聞配達、農家の手伝など）と「家族ぐるみ」で頑張りぬいた。

このように長びけば長びくほど強くなつていく組合員の闘争意欲の前に解散、閉鎖を豪語していた会社も十月二十九日遂に意を翻し正常な団交が地方労働委員あつせんの下に開始されて、十月三十一日急転直下妥結をみた。

妥結内容は解雇通告をうけた五名の組合員中三名は一応離職するが三カ月以内に本採用すること、退職金は一万円、立ちあがり資金一人五千円貸付、臨時雇は組合と協議のうえ行うなどであつた。

秋闘も本格的段階に入つた。一糸乱れず百四日間を闘いぬいたアサヒタクシーの闘争に学ぼう。



【詩】

工場にたて籠っている製作所のみなさんへ!!

塀上を有刺鉄線で囲ぎょうし
門にはバリケードをしつらえ
あなた達はものものしく
職場を武装した
その武装は 反抗は
一体たれに向けられているのですか

三鉱労組製作支部旗を
十年、喜びと悲しみを共にした
赤旗を
あなたたちは
さかさに吊りあげ
有刺鉄線にかけて引き裂き
煙草の火で焼き
土足でふみにじつた。
その暴挙は
一体たれを洗しているのですか
あなたたちも労働者です
敵と内通し 仲間を売り
労働者としての良心を流した
あなたたち自身の苛責が、焦燥が
自棄の形となつて暴挙に駆つたのですか。
あなたたちの敵は 武装の対照は
会社・資本家だと訓えても
あなたたちが引き裂きふみ躙つた旗が
日の丸・軍旗でなければならなかつたと
諭しても
いまのあなたたちには
すなおにきいて貰えない。
十年を逆走しているあなたたちの
英雄気取の心の裏側の
さびしさも判るのに
何が私たちとあなたたちを隔絶したのか。
誰が私たちとあなたたちを隔絶したのか。
心の目を見開いて
真実を看破してほしいのです。

（加藤説夫）

自労・三池鉱業所に抗議

十月二十四日、大牟田分会第七回臨時大会が開かれた。この大会に委員より、三井鉱山の合理化に反対する動議が提出され、全員一致で決定、ただちに、次のような抗議文が三池鉱業所に郵送された。

抗議文

貴鉱業所は「エネルギー革命による石炭危機」という理由で大量の失業者を作ろうとしている。この会社の行為に対して、労働者の生活と権利を守るために闘つている労働組合に対して、あたかも大牟田市を破壊するもののような行為として、宣伝しているが、それが全くのごまかしであることは、我々全日自労の仲間の生活が証明している。

我々の仲間の大半は、貴鉱業所の再建という美名にかくれて首を切られたものである。

この結果大牟田市は全国一の失業都市になり、大牟田市民の生活水準を貧乏におとし入れる結果となつた。又大牟田市の予算を、大市にしめつけ二〇万市民の一切の要求を阻止する結果をまねいた。

この事は、貴鉱業所の首切りこそが大牟田市民の生活水準を貧乏に追込み、大牟田市の発展を阻止して来たものが貴社であることを証明している。

これらの行為に対して、貴社は一切の責任を放棄している。

このような責任をおいかくして大牟田市をつぶすものが労働組合であるかのような宣伝は、即時中止しそれと同時に合理化による一切の首切りを中止してもらいたい。

この抗議に対して貴社が聞き入れなければ、我々全日自労四千五百名は全組織をあげて、貴社が全市民の敵であり、大牟田市を破壊する張本人であることを、大牟田市民にバクロする。

右抗議する。

一九五九年十月二十四日
三池鉱業所長 若林寿男殿
全日自労大牟田分会
大会員一同

「炭鉱失業者」の救援物質

田川の失業者に送る

失業反対闘争の一環として、九州拠点ブロック共闘会議では、黒い羽根運動とは別個に「炭鉱失業者救援」の米一握り運動を行つたがこのほど大地評では第一次の集約を終り田川にトラックで輸送をしました。第一次で集約した現金・物資は左の通りで、ご協力戴いた各単産の組合員の皆さん方に紙上をかりて報告し、ご協力に感謝します。

三鉱	米九俵
三染	衣類十五梱包
東圧	米二斗、衣類十六梱包、現金九・九三三円
自労	米一箱、衣類四梱包
教組	衣類十六点、現金六・二八〇円
電化	米三升九合、衣類一〇一点、現金四・九〇四円その他四点
合成	米一升、衣類二〇〇点、本三〇〇冊、靴二五足
合労	米五升、衣類三五点
県職	衣類一〇点
西日本紙函	現金六〇〇円
三鉱書記労	現金六三〇円
福現労	現金四〇〇円

同志愛で稲刈り

三川支部平井分会で

去る十月三十日、ここ荒尾市上井手上ではときならぬ集団稲刈り風景がみられた。

集団で稲刈りしていたのは三鉱労組三川支部平井地域分会の人たちである。

問題の田は、三川支部荒木又雄さん所有のもの。去る九月二十九日会社とグルになつた警察は、組合弾圧に乗り出し、職場活動家八名を、暴力の疑いがあるといつて逮捕した。

組合では不当な逮捕に対して、この日午後三時ごろ警察前で抗議大会をひらいたが、この抗議大会のため、各地域では非常動員がかけられた。

平井地域分会ではこの動員連絡を荒木さんの奥さんカツさんがしていたが、至急連絡のため途中で右足負傷という事故にあつた。負傷程度は十八針も縫合するという重傷だつた。

このため直ちに万田分院に入院、治療を行つたが、まだ全治にいたらず入院中である。

農繁期がやってきた農家では、猫の手も借りたいほどの忙しさである。

荒木さんは奥さんが入院中のため二人で稲刈りをやらなければならなくなつた。この苦しい状態を知つた平井分会の松尾克良分会長は早速分会員に知らせたのである。

この結果、分会全員の意思と行動によつて、ここに集団稲刈りへと発展したものである。

この日ちようど二十四時間ストで組合ではバイク、自転車隊の対外情宣を行つたが、沿道の自転車隊と野良で働く分会員たちのたくましい交換風景も見られた。

なお、同分会では日頃からこういう行為はおこなわれていて、暖かい友情に結ばれた団結によつて、企業整備反対闘争も支障なく行われている。

また、同分会では行事のとき平井校がよく使われているが、いつも使用後はキレイに掃除して、後には塵一つ残らぬというぐらいで、平井校の先生たちも、分会で使われるのならいつでも使つて下さいと日常行動をたたえているほどである。

映画

貴族の階段

貴族の家に生れた若い男女の悲恋を描く

【かいせつ】昭和十一年二月二十六日早暁、血気にはやる青年将校らが当時の重臣たちを殺害したいわゆる二・二六事件を背景に、貴族の家に生れて事件のウズ中にあつた若い男女の美しい悲恋を描こうとする文芸作品である。原作は、中央公論に発表された武田泰淳の落ちゆく貴族階級と台頭する軍閥を対比させながら、日本の混乱期に生きた青年たちの思想と苦悩、愛と死を描いた実験小説である。

【ものがたり】満州事変以来、急速に台頭して来た軍部は、日増しに発言権を増し、今やその内部には血気さかんな少壮将校達によつて、天皇親政の国家改造を企図する重臣暗殺計画が着々と進行していた。

元老重臣や政党政治家の腐敗堕落から農漁村は疲弊し、農民漁民の怒りは農漁村出身者の多い軍隊に反映、ドイツのファシズムと相呼応して改革の気運はとどまるところを知らなかつた。こういつた情勢の中で、陸軍大臣猛田大将は進歩派貴族で革新派将校にも理解を示す貴族院議長の西の丸秀彦の担ぎ出しに躍起となつていた。しかし気弱で典型的な貴族の秀彦はいつも柳に風の態度で、のらりくらりと逃げていた。

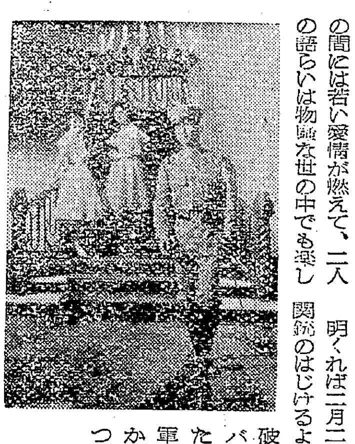
西の丸氷見子と猛田節子は、こんな両親をもつ女子修学院の生徒であり親友であつた。氷見子の兄義人は、陸士を経て近衛師団の見習士官として軍籍に身を置き、義人もまた他の青年将校と同じ革新の情熱に燃えていた。然しこうした義人にも、氷見子の友達節子との間には若い愛情が燃えて、二人の語らいは物騒な世の中でも楽しい青春をたのしむ一刻であつた。

年も明け、二月も中旬を過ぎたころ、氷見子は節子から、「あすの夜明けになにか起るらしいの、義人さまもお仲間に入つてらつしやるらしいの」と連絡をうけた。

義人は遠くへ出張するという名目で、父に別れに来たが、氷見子は兄に睡眠薬の入つた酒をすすめた。

明くれば二月二十六日、早暁機関銃のはじけるような銃声に夢は破れた。義人はガバと起き「しまつた」と唇をかむと軍装を整えて表門からかけ出して行つた。

（十一日からグランドで）



〃カチューシャ楽団〃

大牟田公演 11月19日 市民会館

アジアの民族舞踊・民謡とすでに社宅公演などで私たちにもなじみ深い〃カチューシャ楽団〃の大牟田公演が、来る十一月十九日（木）午後六時より市民会館で開かれる。これは大牟田センター合唱団の主催によるものであるが、その主なプロをひろつてみると、

第一部 みんなが知つている歌と踊りのアンサンブル
第二部 珍らしいアジアの民族舞踊集
第三部 冬から秋へと踊る民謡集「日本の四季」

にわかれ三時間半の公演となつている。

この〃カチューシャ楽団〃は、いまから十年前東京日比谷公会堂に観衆五千人を集め、シベリヤ抑留生活を終えて帰国した若者たちによつて「帰国感謝演奏会」が開かれたが、それを契機として誕生した音楽舞踊団である。そしてややもすればマス・コミによつてゆがめられようとする、われわれアジアの民謡を、正しく受けつぎ、広めるために精進している楽団である。また私達の闘いの中でも愛唱している「ともしび」や「トロイカ」「バルカンの星の下に」など数多くの歌もこの〃カチューシャ楽団〃によつて紹介されたのである。（なお整理券はセンター合唱団、民主団体で取扱中、一〇〇円）

分離問題に思う

宮浦 上村ただを

各職場・地域の末端組織の中では「製作所の奴等はロクなことはせん!」と憤慨しておりますが、この問題ですこし考えてみたいと思います。

二十四日、製作支部は九・一二（九月十二日のこと）申合わせ、および組合規約を踏みにじつて、分離行動を起したわけですが、果してこの分裂組合員のうち、分離後の状態を十分事前に検討し、確信をもつて行動をしている人が何名あるでしょうか?

「賃金、能率、首切りの問題など検討するだけの資料もなく、時期も間に合わなかつた」と分離反対組のある人は言つておられるが一部の幹部のせん動によつて、不本意にも、分離賛成組に加担しなければならなかつた人達が大多数と考えます。

「ロクなことはせん」奴等は懲戒委員会に付される八名の幹部と少数の同調者であることを、われわれは知らなければなりません。と同時に、こんご長期にわたつてわれわれは復帰呼びかけをおこなつていますが全組合員が温い心で説得に尽力しなければなりません

また、分離反対の二十数名の勇敢な仲間を守り育てることも、首切り反対闘争と併行して、われわれに課せられた重大な事柄であります。

この少数の支部組合員の中にはこんごわれわれに想像もつかない幾多の苦悩も必ず生じてきます。三鉱労組の全体責任として解決しなくてはなりません。

現在までわれわれと共に闘つてきた製作支部組合員と、家族の方に一言したいが、この「分裂状態」が組合員にどんな影響があるか十分解つていられると思います。

九・一二の発端にせよ、退職締切り間近かの一〇・二四の今回にせよ、裂切り幹部竹原氏がいう如く「時期的にも影響がない」と真実に考えてはいないでしょう。

労働者同志の規則まで破つて強行する価値があつたでしょうか。

われわれから分離しても、やはりあなた達は労働者です。

ピケ、バリケートで対決する相手は独占資本と反動政府であるはずです。新聞報道によると、再建市民本部なるものから、激励を受けておられる姿は、一見英雄のような感もあたえますが、労働者としての首切り反対の闘い、日本民族としての安保反対の闘い、或いは世界的な平和運動の中では、あなた達は英雄でないことを認識すべきです。

なぜなら、安保に連なる合理化反対を打出したわれわれに反対しているからです。

目前の利益と歴史に残る裂切り行為とを天ビンにかけるとは、あまりにも哀れなことです。

ここはもう一度家族の方と冷静に話合つて、勇敢に行動されるよう、われわれ仲間は望みをかけて待つております。

首切り反対懇談会開く

大地評ではさきごろ政治局員の協力の下に、全校区にわたつて「市会報告会」を開催し、十月市議会報告を兼ねて企反闘争についての地域情宣を行つたが、現在第二次計画として各地域で「首切り反対懇談会」を開催している。向う側の宣伝攻撃が激しくなつている今日、組合員の積極的参加を地評では望んでいる。